



〒614-8011 京都府八幡市八幡垣内山 47
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

はじめに

皆さん、おはようございます。

八幡みどりの市民の鷹野雅生です。

本日3番目の質問をさせていただきます。
お疲れのところですが、しばらくの時間お付き合いをお願いします。

それでは通告に従い質問をさせていただきます。

この号の内容

- 1 はじめに
- 2-3 観光の取組み
- 4 観光の取組み答弁
- 5 農業の営み
- 6 農業の営み 答弁
- 7 観光の取組み要望
- 8 観光の取組み再質問
- 9 農業の営み 再質問

"GASHINとは"

GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと願っております。

観光の取り組み

1つ目の大きな柱「観光振興について」

+++++ 観光施策と対策 +++++

私は未熟ながら、就任以来一貫して観光をテーマに質問してまいりましたのも、八幡市にある豊富な観光資源がこれまで十分に生かされずにきたことを残念に思うからです。

日本には世界に誇れる観光資源が豊富にあります。

平成24年3月には、観光立国推進基本計画が閣議決定されました。政府は、国を挙げて世界から観光客を呼び寄せることを真剣に考えるようになってまいりました。折しも、富士山が世界遺産に登録され、三保の松原も組み込まれました。ときあたかも2020年のオリンピック・パラリンピックが東京に決定しました。「お・も・て・な・し」は、今や世界に通じる日本語になりつつあります。

観光立国となれば、申すまでもなく京都が昔も今もこれからも主役であることは、多くの方が認めるところです。清水寺界隈はもちろん、今は嵯峨嵐山、金閣寺、銀閣寺、北山、大原三千院、南禅寺界隈なども観光客であふれています。宇治の平等院及びその周辺も観光客であふれています。このにぎわいを、隣のにぎわいとして見ている手はないと思います。

ことし2月に発行された世界的な外国人観光客向けガイドブックミシュラン・グリーンガイド日本編の第3版に、京都府から宮津市の天橋立と伊根町の伊根の舟屋の景観が二つ星評価で、新たに掲載されました。

ミシュラン・グリーンガイドは、1926年に当時フランスのブルターニュ編が刊行されて以来80年以上の歴史があり、コレクションは現在約530種類のガイドが10カ国語で展開され、外国人にとって旅行のバイブルとなっています。

天橋立は、ミシュラン・グリーンガイドに掲載されることを目的に、ホームページ等で多言語の観光案内を実施した努力も実り、二つ星評価を得て、外国人観光客が大幅にふえています。次に天橋立を世界遺産にしようという活動が始まり、人々が一生懸命に働きかける努力の積み重ねが、世界遺産になるならぬよりも大きなパワーとなって、観光振興につながっていくのだらうと思います。

ここからは本市八幡市の取り組みです。

ことしの夏は、JR東海の「そうだ京都、行こう。」のキャンペーンの舞台に、石清水八幡宮が初めて取り上げられました。京都には、世界遺産を含め有名な社寺がたくさんあります。そのような観光スポットが我が八幡市に存在することを、私たちは改めて認識することができました。八幡市には全国に誇れる観光資源があるという認識に立って考えていけば、道は開けてまいります。

今、各都道府県は、富士山と三保の松原に続けと、計画的に事業を展開して観光地づくりに励んでいます。それは、各都道府県では、特色を生かして人を呼ぶこと、

+++++ 観光施策と対策 +++++

にぎわいをつくることの大切さに気づいているからです。お隣の向日市は、食の分野で激辛食品と激辛横丁とを通じて全国に知られるようになってきました。

八幡市は、男山や三川合流部が駅前付近にあり、その豊かな自然環境、そして石清水八幡宮や松花堂などの歴史文化の観光資源を最大限に生かし、市内外に八幡市の魅力を発信し、八幡市に観光客を呼び寄せ、町ににぎわいをつくり出していくかが、市に課せられた喫緊の課題であります。私は、観光を通して、市民生活や産業の活性化を図っていただきたいと思います。

JR東海は、キャンペーン期間中、東京駅を初め横浜や名古屋、新幹線の中に、石清水八幡宮のポスターを集中して主要駅に掲示しました。テレビCMも、これでもかというほど繰り返し流れていたと聞きます。この効果があり、秋以降も関東、中部地方から例年より多くの観光客が石清水八幡宮に来られていると伺っております。

次に、京都府関係についてであります。これはさきの京都府議会での理事者の答弁を一部織りまぜながらお伺いをしてまいります。

昨年度、市制施行35周年を迎え、駅前観光案内所もリニューアルされました。観光情報の発信につきましては、観光協会において、今年度、スマートフォン対応で、新たなアプリケーションやマップを活用して、充実した観光案内所ができるようになると伺っております。

また、石清水八幡宮は、ミシュラン・グリーンガイドにはまだ掲載されていませんが、今後外国人観光客がふえることが見込まれる中、八幡市観光協会のホームページの基本的な観光情報を英語に翻訳し、外国人旅行者のサポートが行われます。

ソーシャルメディアの活用につきましては、限られた人材の中、フェイスブックを利用した観光情報が発信されています。現在、インターネットではたった1枚のすばらしい写真を載せただけで、自分もその場所に行って写真を撮りたいと思う人が大勢押しかけてくるようです。写真を活用して観光に成功している自治体もあるようです。スマートフォンやフェイスブック等に載せるための写真を撮るすばらしい場所や景色を冊子にして、インターネットを通して内外に明示することも、効果があると思います。

そこでお伺いします。

質問

①観光計画の基本となる将来的なグランドデザインについて

⇒八幡市の魅力ある歴史を全国的にPRして頂くためのお考えをお聞かせ下さい。

②八幡市観光基本計画の進捗について

⇒今年度に改定予定の八幡市観光基本計画の進捗状況をお聞かせ下さい。

③写真を活かした観光の取り組みについて

⇒すばらしい場所や景色を映しインターネット等に展開するお考えはありますか？

観光の取り組み 答弁

1つ目の大きな柱「観光振興について」

+++++ 観光施策と対策 +++++

答弁

①観光計画の基本となる将来的なグランドデザインについて

⇒近年の観光の傾向が、個々の興味や関心を探求する多様な旅行へ細分化してきております。名所、旧跡などの与えられたものを見るだけの物見型観光と、観光地が織りなす物語の中に入り込み、その世界を体感、遊び、学ぶことで精神の高揚や癒やし、感動を得る体験型観光等への2極化しつつございます。このようなことに対応するため、今回の改定では、物見型観光を含め観光客にお越しいただくため、本市だけではなく周辺地域と連携し、再び本市に訪れていただける状況を創出するほか、観光客に満足していただける地域資源の発掘と活用をしてみたいと考えております。

また、男山や三川合流部等の豊かな自然環境、そして石清水八幡宮や松花堂昭乗等の歴史文化の観光資源を最大限に生かし、観光行動を物語として構築する物語観光の取り組みを進めることにいたしており、学識経験者や観光関係団体等で構成する八幡市観光基本計画検討懇談会を設置し、現行計画や八幡市の観光について意見をいただいております。

改定案を取りまとめ、来年1月にはパブリックコメントを予定し、3月には検討懇談会の意見をまとめ、計画を策定してみたいと考えております。

②八幡市観光基本計画の進捗について

⇒庁内推進委員会で現行計画の達成状況の検証を進めると共に市内外の観光関係団体や事業者に対してヒアリング調査、意見の聞き取りを行い、課題の整理を行っているところでございます。

また、学識経験者や観光関係団体等で構成する八幡市観光基本計画検討懇談会を設置し、現行計画や八幡市の観光について意見をいただいております。

改定案を取りまとめ、来年1月にはパブリックコメントを予定し、3月には検討懇談会の意見をまとめ、計画を策定してみたいと考えております。

③写真を活かした観光の取り組みについて

⇒八幡市観光協会では、これまでから八幡市の観光名所や観光イベントを題材として写真コンクールを実施されております。これまでの入賞写真などを活用し、ご覧になった方が見に来たくなる、自身で写真を撮りたくなるように、写真を撮っていた季節、時間帯などの情報を記載したものを、ツイッターやフェイスブックなどのSNSやホームページに掲載するよう観光協会と協議をしてみたいと考えております。

2つ目の大きな柱「八幡市農業の現状と展望」

+++++ 農業の在り方 +++++

八幡市における農業が、どのように営まれているか。八幡市の農業の推移や生産量、耕地面積、耕作者推移、農業就農人口、販売農家数など、いろいろな数字をもとにした統計がありますが、それを見ますと八幡市においては販売金額について稲作が第1位であり、次に露地野菜、季節野菜の経営が2位でありました。

そこで、稲作と野菜について、さらに八幡市の農業のあり方について質問させていただきます。

昭和45年から水稻の生産調整が始まり、今年、5年後に生産調整廃止が閣議決定されました。約50年でピリオドが打たれます。その中で八幡市の米政策の今後の課題は何でしょうか。例えば水問題、ここ数年の夏場の異常高温、豪雨、水不足などで、米の品質低下による米の価格が年々下がり、今後も生産調整にピリオドが打たれ、価格も低迷すると思われるます。

TPPやFTAが締結されれば、さらに大きな変化が予想されます。米の価格が安定してほしいと思いますが、現状は高齢化や担い手不足が深刻な状態です。また、八幡市に在住していない農地を持っている入り作者や耕地放棄の問題もあります。

稲作については、農地の集約、機械化の促進及び栽培の方法などの改善を図ることによって、よい米ができるようになると思います。

次に、野菜についても、昔は白菜、キャベツなど重量野菜が多く栽培されていましたが、高齢化に伴いネギや小松菜、ホウレンソウの軟弱野菜に変わってきました。軟弱野菜は回転率が高く、狭い土地を有効利用できて収益が上げられます。そのことから、都市近郊地域では軟弱野菜は向いています。

高齢化や住宅がふえて農薬散布ができない状況もあり、そんな状況の中で本市の特産品は何にするのか。今までの推移を見て、野菜そのものの需要はこれからも減らないと思いますが本市は、都市近郊の立地条件の中でどのような野菜づくりを農家に支援されていけるのか。さらに、販売については既存の販売形態以外に、例えば市場出荷だけでなく、直販所、契約、加工、業務用など多様なチャンネルの充実が必要です。

市は、場所を提供するだけでなく、指導もしなければいけないと思いますが、常に情報収集しながら府の政策、市の政策をマッチングさせていかなければなりません。農家とともに歩まないといけないと思います。

そこで、八幡市農業の現状と展望について、4点質問させていただきます。

質問

- ①稲作栽培の現状と展望について
- ②都市近郊の利点を生かした野菜の現状と展望について
- ③安心、安全な食べ物という観点からの有機減農薬栽培について
- ④農業のあり方と今後の展望について

答弁

①稲作栽培の現状と展望について

⇒本市の昨年度の水稲の作付け面積は 286 ㍊で、市全体の収穫量は 1,530 ㍊でございます。近年、地球温暖化により猛暑日がふえ、豪雨による冠水被害等で品質低下が危惧されており、これまでに山城産米改善運動推進本部を中心に最適品種の検討、平成 26 年度からは農家連合会を中心に米の作付け期を遅らすことにより用水確保の解消、また、高温被害をなくし、良質米収穫に向けた取り組みが行われると伺っております。

市といたしましては、引き続き農家実行組合を中心に JA、京都府農業改良普及センター等と連携し、良質米収穫と安全・安心でおいしい八幡市産米生産に向け取り組んでまいりたいと考えております。

②都市近郊の利点を生かした野菜の現状と展望について

⇒都市近郊という立地条件を生かし、ハウス栽培など施設園芸作物の投資型経営が行われておりまして、京ブランド野菜の九条ねぎ、水菜、Eビ 仔また山城地域推進品目であります小松菜、杓いづか、ナス、キュウリなどが生産出荷されております。

市といたしましては、生産農業者となる担い手の育成・確保を図るとともに、パイプハウスやネットハウス設置などへの支援、また野菜の出荷袋により八幡市産であることを PR しているところでございます。今後もこれらの取り組みに対しまして、支援をしてまいりたいと考えております。

③安心、安全な食べ物という観点からの有機減農薬栽培について

⇒山城地域農業振興協議会や JA と連携し、生産履歴の記帳の普及や農業生産加工工程管理の導入の普及・啓発に努めております。また、土壌づくり、減化学肥料、減農薬による栽培計画を作成いたしまして、京都府から認定を受けました農業者であるエコファーマーを推奨しているところでございます。

④農業のあり方と今後の展望について

⇒耕作面積が 30 ㍊以上の販売農家で、兼業農家が 216 戸、専業農家が 120 戸でございます。全国的に農地集積が叫ばれている中、一部では規模拡大を目指す若い専業農業者への農地集積や組織化、集団化が進んでいるところでございます。

一方、高齢化が進むことにより、不作付け地や耕作放棄地が増していくことが危惧されている中、農地の保全と大規模農業を目指す担い手農業者や農業生産法人への農地の集積が必要になるものと考えております。

市といたしましては、都市近郊という立地条件を生かした野菜、茶、カキ等の集約作物の生産、季節園芸物の地域ブランド化、安全・安心な農作物の生産に向けた取り組みや生産者、消費者、事業者と連携し、地産地消を展開しまして、地域の活性化を図ってまいりたいと考えております。

観光の取り組み

【要望】

+++++ 観光施策と対策 +++++

ご丁寧な答弁ありがとうございました。

それでは、何点か質問させていただきます。

八幡市の観光の振興については、答弁を聞かせていただきまして、観光基本計画により計画的に着実に取り組まれていくことは認識しました。

ことしの夏は、JR東海の「そうだ京都、行こう」キャンペーンの舞台に石清水八幡宮が取り上げられました。キャンペーン効果が秋以降も、関東、中部地方から例年より多くの観光客が石清水八幡宮に来られると伺っております。また、市内観光スポットにも行かれると思います。秋に入ってから観光バスもふえていますし、リュックサックを背負って町歩きをされている方もふえていると思います。

今後、観光客が見込まれる中で、八幡市駅は八幡市の観光の玄関口ですから、もっとにぎわいのある駅にしていかなければいけないと思います。

ことしのJRの東海の観光キャンペーンをきっかけに、八幡市商工会では、駅前周辺活性化のため駅前ライブ事業、駅前の空き店舗を活用してふれあい館事業、空き店舗前の大型観光案内板設置事業、老朽化した空き店舗を覆う事業を実施され、駅前には、以前と比べるときれいになりましたが、駅前には老朽化した空き店舗が多い中、1店舗だけで駅前を活性化することは大変しんどいと思います。

やはり、店舗など集中しないと、根本的に駅前振興はできないのではないのでしょうか。

第4次八幡市総合計画においても、交流拠点整備プロジェクトにおいて、市民交流の推進と観光の振興を目指した八幡市駅前周辺の整備推進が明記されています。

要望

○八幡市駅をにぎわいのある駅に。

⇒観光面だけでなく、まちづくりを含めて石清水八幡宮の門前町の表玄関にふさわしい駅前周辺整備に向けて、今後地権者や関係機関と協議し、取り組んでいただきますように要望します。

観光の取り組み 【再質問】

+++++ 観光施策と対策 +++++

質問

次に、写真を観光に生かした取り組みですが、八幡市の美しい写真をインターネットで発信し、1枚の写真を見て八幡市を訪れた方もきっとおられます。

写真コンクールの写真の活用はぜひお願いします。写真をカレンダーや名刺等に活用されると、さらに多くの方が八幡市に来ていただけるのではないのでしょうか。

これまでは旅行の情報収集は、旅行会社、旅行ガイドブックで得ていましたが、現在は、観光客の多くはインターネットでも情報を収集していますので、観光協会では日々最新の情報を発信されることを期待いたします。

情報発信の強化をお願いします。

また、個人外国人旅行者もインターネットで情報を得ています。外国人観光客がふえるということは、日本人観光客がふえることだと思います。

そこで、1点質問させていただきます。

○観光客向け無料ランの提供について。

⇒もちろん観光案内所に英語が話せる人がいてもいいのですが、外国人の観光客向けに無料の無線ランの提供が必須と聞きます。京都市内の観光地では、外国人などの観光客向けのインターネットに無料で接続できる無料ランが提供されています。同時に複数の人が見られますし、スマホを活用してアプリを取り込み、写真をかざして取り込むと、写真や音声、文字などで案内が動き出します。もちろん日本人も使えると思います。

持ちながら、歩きながら活用でき、パンフレットの活用にも効果が出ると思います。最近では、宇治市でも観光案内所などで提供が開始されました。

八幡市でも提供の考えはありますか。

答弁

観光客向けの通信サービスの提供につきましては、主要な観光地では観光案内所や観光施設等において無線ランの提供がふえております。

外国人を含めた観光客に対して有効なサービスの一つと考えられますことから、無料の無線ランの提供について課題があるかどうかなど先進地事例を調査し、検討してまいりたいと考えております。

生産調整の廃止
農業と共に歩む
農業の担い手不足

農業の営み 再質問

+++++ 農業の在り方 +++++

次に、八幡市農業の現状と展望について再質問させていただきます。

先日、八幡市農産物品評会に行ってまいりました。

今年は、春先は低温で、梅雨入り後は高温でした。梅雨が明けてからも、猛暑が続きました。9月には台風18号で京都府下の広い範囲で農産物の冠水や農機具が冠水し、10月も高温を推移しました。

今年、こんな気象変動があった中で、軟弱野菜のネギや小松菜、ホウレンソウは、病害虫に影響なく、荷姿が崩れていませんでした。重量野菜の大根やカブ、白菜、キャベツなども、台風18号の影響がありましたが大きい物がたくさんありました。

色つやもよく、そろいもよかったです。果菜類では、キュウリ、トマトなどもありました。花については、トルコキキョウやバラがありました。背が高く、ボリュームもあり、色は鮮やかでした。予想以上にいい物がありました。

表彰されたのは若い農業者の方が多く、八幡市は若い農業者が着実に育っていると感じました。このような安心で高品質の地元農産物の利用や販売促進を推進してほしいと願っています。そこで、2点質問させていただきます。

質問

- ①地産地消の取り組みの現状と展望について。
- ②直販所新設の進捗状況と展望について。

答弁

1点目の地産地消の取り組みの現状と展望につきましては平成22年に地産地消推進計画を策定し、学校給食における地元産米や地元産みその利用促進や農産物品評会、販売会等で実施し、さらに地元農産物を使った加工品づくりやそば打ち体験等を通じ、市民交流に取り組んでいるところでございます。

また、スーパー等の量販店におきましては、契約農家によるインショップ型農産物直売所への出荷やふれあい市が開催され、生産者と商業者を結びつける場となっております。生産者が消費者ニーズを把握した生産を行い、消費者が地元農産物を選択することで、地域食料自給率の向上を図り、引き続き生産者、事業者、消費者と連携し、地産地消の推進に取り組んでまいりたいと考えております。

2点目の農産物直売所の新設の進捗状況と展望につきましては、農産物直売所設置委員会におきまして、これまでから検討されてきたウチサトフナコウジでの新設と、既存施設を利用する2案を並行して協議されておりました。年内には設置場所を決定されると伺っております。